

「再発見、躍進のまつもと」

— 伝統と未来を創るマンパワー —

松本公民館

1 松本地区の概要

松本は、1960年代頃までは田園風景が広がる地区であったが、福井市中心部に隣接していることもあり市街化が進み、商業地区・住宅地区として発展してきた。今では、住宅、学校、病院、商店などが程よくミックスし、住みよさや利便性に富んでいる地区となっている。また、2015年には、えちぜん鉄道「まつもと町屋駅」が新設された。

松本地区は、古来より「北陸道」の要所として発展してきたので、地区内には史跡や歴史的なエピソードが数多く残っている。それは、今、地区の宝である。

「蓮如上人御影行列」の通過、結城秀康が築いた福井城下の出入り口「加賀口御門址」、北陸道の「一里塚跡」や旅人の安全を見守った「どんどの地蔵」、暴れ川の底喰川にかかる「千日橋」、福井城の堀の名残でもある「芝原用水分流」などがある。また、明治初期に羽二重織りを福井に導入した村野文治郎の工場が簸川（ひかわ）神社近くにあったことから、その当時、羽二重産業が盛んであったことも伺える。

その他、1900年から1966年まで県農事試験場が現松本公民館の場所にあり、そこでコシヒカリが誕生した。また、福井農林学校や福井養蚕試験場などが、かつては地区内にあった。

近年では、ノーベル賞を受賞された南部陽一郎博士や本屋大賞の宮下奈都氏が松本地区の出身であり、このことも地区の誇りに加わった。

平成29年4月1日現在 5,365世帯、12,131人で県内最大の県営住宅「町屋団地」があり、人口規模は市内第6位である。

2 ふれあって人のぬくもりを感じるまちに

(1) 新しい名物の発掘～コシヒカリは松本生まれ！～

コシヒカリの開発は、松本地区にあった県農事試験場（県農業試験場の前身）で1948年に始まった。コシヒカリの株は、福井地震の時のひび割れやその後の洪水など、様々な災害に見舞われながらも、この地がかつて沼地であったことが幸いして、しっかりと根を

おろして生き残ることができた。松本の風土がコシヒカリの誕生に欠くことのできない条件を提供したのであろう。しかし、今では、地区内に田んぼがほとんどなく、このような事実を知る人も少ない。

そこで、2016年がコシヒカリ誕生60周年の年に当たることから、松本地区を生誕地としてPRし、合わせて米のおいしさを見直してもらおうと、「米料理コンテスト」を開催した。たくさんの家庭からアイデア料理のレシピが寄せられた。

今後、地区の名物メニューとして広めていくとともに、このような活動を通して、コシヒカリと地区への愛着が一層大きくなっていくことを期待している。



【コシヒカリを使ったアイデア料理の調理】

(2) 地区の絆を深める3つのまつり

地区内の子どもから壮年、高齢者まで、幅広い世代が交流し絆を深め、松本地区が活性化していくことを願い、松本地区をあげて、大きなまつりを年3回開催している。

1つ目は公民館主体の「夏まつり民踊大会」（7月）で、フェニックスまつりの協賛である。夏の一夜の民踊大会に地区民が家族総出で参加し、「松本音頭」をはじめ、いろいろな民踊で交流を深めている。夜店ならではの雰囲気や、最近ではペットボトルを使ったエコキャンドルによる幻想的な場を楽しんでいる。

2つ目は、地区内各種団体の協働で開催する「松本まつり」（10月）である。2016年のテーマは「ツナグプロジェクト～輪っしょい松本～」で、三世代交流や地域のつながりを深めたいとの思いを込め開催した。

前夜祭の「輪っしょい松フェス」では、子どもたちが地域のお年寄りの家を回って、願い事を絵馬に書

いてもらう「ハロー大作戦」(育成会)、キャンプファイヤーと千人鍋(PTA)などを目玉企画として行った。また、当日は、園児、小・中学生や講座生、地区団体による発表・展示、バザーなど、たくさんの企画が行われた。多くの方が来場し、



【大寒願かけ：護国神社での禊】

のあちこちで楽しそうな笑顔が見られた。

最後は、「松本まつり冬の陣大寒願かけ」(1月)である。大寒にあわせ、身体に「願い布」を結んだ駆け男・駆け女が、地区内の7つの神社を巡り参拝するものである。各神社では、近隣の方々が甘酒やみかんなど工夫を凝らした温かいおもてなしをしたり、声援を送ったりした。終着の護国神社では水をかぶって禊をし、その後、鍋を囲んで親睦を深めた。

2014年に地区有志が100年、200年と続く伝統行事にしようと企画し始まったもので、年々、スタッフ・地区の方・参加者が一体となり、松本地区の絆の深さを感じることができるイベントになってきた。2017年1月の大寒願かけは118名が参加した。

今後、地区の様々な宝を発掘し、毎年少しずつパワーアップさせながら、地区の活性化を図りたい。

3 地区の宝・ニーズの発掘～公民館教育事業～

松本公民館では、小さな子どもから高齢者まで、幅広い様々な地区住民の方の多様な学習ニーズに対応していきたいと考え、地域の課題を的確に把握し、生活的・地



【シンボルマーク】

域的・現代的課題を取り上げた教育事業を企画することを心がけている。また、公民館職員の女子力を発揮し、たくさんの方が「楽しみながら参加してみたい」と思ってくださいようなネーミングや内容、実施時期などを工夫している。

平成29年度は、次の教育事業を行う予定である。健康と長寿の年間を通した講座「たぶのき大学」。60代を対象とした参加型の「輝きたい」。概ね40～60歳対象で部活をイメージした内容の「松本組」。地区の

まつりなどに一緒に参加し仲間づくりができる青年事業「夢∞松(ゆめまつ)」。講師の解説を聞き雅な時を過ごす「原文で読む源氏物語」。着物を着て日本文化を学び活動する「着物で街へでかけよう」。お菓子やお弁当づくり、恒例の川遊びなどで様々な体験ができる「子ども教室」。子育て中のお母さんのための「～ママと子どもの楽しい時間～松ぼっくり」。新しくパソコンを始める方への「IT相談会」。食や運動美と健康を学ぶ「～忙しい女性のための美と健康の講座～自分磨き」。



【子ども教室】

また、郷土学習は地区の中央を流れる底喰川を知り地区の宝として将来に引き継ぐため、「～郷土学習～底喰川を美しくしよう」とした。学んだりダッグレースを開催したりして川に親しむ予定である。

その他、地域に関連させながら本について語り合う「文学カフェ～宮下奈都の世界」も開催する。

そして、昨年度末に開催した「健康講座骨盤コンディショニングヨガ」が好評だったことを受け、今年度はそれを「骨盤の夕べ」という講座に発展させ、骨盤に絡めた健康講座やイベントを開催する予定である。

このように、新しい発想の提案を取り入れ、世代を超えたつながりをつくっていききたい。

4 終わりに

松本地区は、戦後、住宅地として開発が進んできたこともあり、人と人のかかわりを重視し人と地域をつなぐ参加型行事に力を入れてきた。

これからも、人材豊富な松本地区のよさを活かした様々な企画を行い、実施していきたいと考えている。そして、地域の人たちとともに楽しみ、協働し、一層のつながりを深めていきたい。

地域力の向上こそが次世代への大きなプレゼントになると確信している。

松本公民館はスタッフ全員が女性です。たくさんの方が集う公民館で、いきいきと活動されている館長・主事・管理人の方々の姿がとても印象的でした。これからも、女性の視点を活かしてアイデアと行動力で、人と人が楽しく繋がり合う「活気ある松本」をめざしていってほしいと思います。